

大雨と雷及びひょうに対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

令和7年7月2日5時30分、「大雨と雷及びひょうに関する福島県気象情報第2号（福島地方气象台）」が発表されました。今後の気象情報に注意するとともに、農作物の管理には十分注意してください。

福島県では、上空の寒気や暖かく湿った空気の影響により、2日夜のはじめ頃にかけて大雨となる所があるでしょう。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒してください。また、大気の状態が不安定となる見込みです。落雷や突風、ひょうに注意してください。

【気象概況】

高気圧が四国の南にあって、ゆっくり西へ移動しています。東北地方には、高気圧の縁を回る暖かく湿った空気が流れ込んでおり、上空の寒気や日中の気温上昇の影響により、大気の状態が不安定となるでしょう。

このため、福島県では、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある見込みです。雨雲が予想以上に発達した場合には、警報級の大雨となる可能性があります。

【雨の予想】

2日に予想される1時間降水量は多い所で、

中通り 40ミリ

浜通り 40ミリ

会津 40ミリ

2日6時から3日6時までに予想される24時間降水量は多い所で、

中通り 80ミリ

浜通り 80ミリ

会津 80ミリ

<防災事項>

福島県では、2日夜のはじめ頃にかけて、大雨による土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒してください。また、2日夜遅くにかけて落雷や突風、ひょうによる農作物や農業施設等への被害に注意してください。

【補足事項】

今後発表する警報、注意報、気象情報に留意してください。

これで、「大雨と雷及びひょうに関する福島県気象情報」は終了します。

【共 通】

- 1 突風や降ひょうに備えて、パイプハウス等の点検やビニールの補修を行いましょう。また、露地栽培では、事前に収穫可能な農作物の収穫に努めましょう。

【水 稲】

1 事前対策

- (1) 増水に備え、用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておきましょう。
- (2) 大雨により水路が増水している場合は、危険ですので近づかないでください。

2 事後対策

稲が水没している場合は、葉先が出るように排水しましょう。

【大豆・麦類・夏そば】

1 事前対策

滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

2 事後対策

地表面に滞水が見られる場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょう。

【野菜・花き】

1 事前対策

(1) 共 通

- ア 水が停滞しやすいほ場ではあらかじめ明きょ等の排水溝を整備しましょう。
- イ ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害が発生しやすい場所では強制排水のポンプも準備しておきましょう。
- ウ パイプハウスでは、被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。
- エ 施設では、天窓や扉があおられたり風雨が吹き込まないように閉めておきましょう。
- オ は種や定植を予定しているものは、天候回復後に実施しましょう。

2 事後対策

(1) 共 通

- ア 停滞水は、明きょなどで速やかな排水に努めましょう。
- イ 冠水した場合は、ほ場への出入りによって土壌の物理性が悪化しないよう配慮しましょう。ぬかるむ場合は、出入りを極力避けましょう。

(2) 野 菜

- ア 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の働きを回復させましょう。
- イ 果菜類等でネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- ウ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、茎葉に付着した砂泥は水をかけて洗い流し、速やかに適切な薬剤散布を行いましょう。また、液肥や酸素供給剤のかん注、液肥の葉面散布により、草勢回復を図りましょう。

(3) 花 き

- ア キクやリンドウ、シンテッポウユリ等の露地栽培では、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。
- イ ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防のため薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

【果 樹】

1 事前対策

- (1) 水が停滞しやすい園ではあらかじめ明きょ等の排水溝や暗きょを整備しましょう。
- (2) モモせん孔細菌病やナシ黒星病などの病害は、降雨により病原菌の分散が助長される

ので、効果のある薬剤を降雨前に散布するよう心がけましょう。

- (3) 多目的防災網を設置している園地では、早急に網を広げましょう。

2 事後対策

長時間に渡る浸水や滞水は根や葉の呼吸を阻害し、生育不良や枯死を招くので速やかに対策を実施してください。

- (1) 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょう。
- (2) 土砂が流入した園地では、根の呼吸を助けるため、なるべく早く樹冠下の土砂を取り除きましょう。
- (3) 枝葉や果実などに泥が付着した場合はできるだけ早く洗い落とし、病害の発生を防ぐため適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施してください。
- (4) ひょう害は、葉や果実などが落下し一見甚大な被害に見えますが、果樹の種類や生育ステージによっては回復することもあるので、適切な対策を実施しましょう。

ア 被害程度別対策

葉、新梢、果実の被害が大きく、それらの損傷が激しい場合は、樹の負担を軽くするため損傷程度の重い果実を摘果しましょう。

着果量は果実や樹体の損傷程度を勘案し、総合的に判断しましょう。

被害程度が軽い場合は、摘果を強く実施すると樹勢が強くなるので、被害程度の軽い果実は適宜残し、樹勢をコントロールしましょう。

イ 新梢管理

新梢が途中から折損した場合には、葉腋芽のあるところまで切り戻し、腋芽の発芽を待ちましょう。新梢が被害を受けると徒長枝が発生しやすくなるので、これらを適切に管理しましょう。

ウ 病虫害防除

降ひょうにより枝葉や果実に傷がつき、病原菌が侵入しやすくなっているため、被害の多少に関わらず、防除指針及び各地域の防除暦に従い速やかに薬剤散布を実施しましょう。なお、散布は枝幹内部まで薬液が届くように丁寧に行いましょう。

エ その他

樹勢回復のために追肥を行うと、樹が強勢となり樹勢のコントロールが困難になるので控えましょう。しかし、新梢のほとんどが被害を受け落下したような場合には、発芽を促すために追肥を行いましょう。

成熟期の果実が被害を受けた場合は、損傷程度により区分し、適正に処理しましょう。

【畜産・飼料作物】

1 事前対策

- (1) 風雨の吹き込みを未然に防止するため、畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等を行いましょう。
- (2) 開放された飼料の保管場所では、飼料をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしましょう。
- (3) 堆肥舎は、風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょう。
- (4) 停電や断水時等の対応をあらかじめ確認し、被災時には、自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう準備しておきましょう。
- (5) 水はけの悪い草地や飼料畑には、明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょう。

2 事後対策

- (1) 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。

- (2) 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し、速やかに排水しましょう。
- (3) 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>